



ろうさい病院つうしん

発行所：中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL：052-652-5511
<https://www.chubuh.johas.go.jp/> FAX：052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

ご挨拶



院長 佐藤 啓二

新年おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症は2類から5類に変更され、パンデミックの様相はなくなりましたが、感染症としての威力はさほど衰えておらず、名古屋市南部の医療を守る為には、緊張感をもって対峙しつづける必要があると感じております。

我が国の総人口については2004年1億2784万人でピークを迎え、以後急速に減少局面に入っており、2025年問題、2040年問題と言われる少子高齢化、生産年齢人口比率の減少等、医療提供体制を維持する事が極めて困難な社会環境になってまいりました。

2020年以降、当院においては病院の存続をかけた経営改善の諸策を講じてきました。

2019年56,000円であった入院診療単価はようやく75,000円に上昇し、2020年16.5日であった平均在院日数は11.4日になる等、急性期病院としての体裁を整えるに至りましたが、まだまだ自立するには程遠い活動実績に留まっておりますので、さらに検討を重ねた結果、やむを得ず3月末日をもって小児科及び産科診療を停止することとなりました。近隣病院ならびに多くの診療所の先生方及び関係者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。これからも当院が果たせる社会的責務をしっかりと認識して、医療活動を継続してまいりたいと考えておりますので、変わらずご指導いただければ幸いです。

診療科スポットライト

待ちに待った手術支援ロボット「ダビンチ」が導入されて

泌尿器科部長 高木 康治

2012年4月に日本で最初に保険適応になりましたロボット支援手術は泌尿器科領域の前立腺癌に対する手術でした。その後ロボット支援手術は急速に日本全国に広まり、今では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌まで幅広く尿路悪性腫瘍に保険適応が広がっています。このような情勢下で2023年7月に待ちに待った手術支援ロボット「ダビンチ」が当院にも導入され、前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RARP）が開始されました。



泌尿器科スタッフ

手術は全身麻酔下で行われ、骨盤の奥深くにある前立腺を拡大された立体画像で間近に観察しながら、操作性に優れた鉗子で前立腺を切除し、残された膀胱と尿道を吻合します。また前立腺の両外側を走行している陰茎海綿体神経を温存することで尿失禁、勃起障害と言った術後合併症を軽減することが可能です。このため手術支援ロボットのメリットである「高解像度の3D画像」、「多関節機能のある鉗子による繊細で直感的操作」、「手振れ防止機能」による繊細な手術操作により正確な神経温存術が可能となり、術後のQOL向上にも寄与しています。

当院にダビンチ導入後、術後尿失禁から回復するまでの期間が短縮され、ダビンチの有用性を日々実感しています。またダビンチ導入前、腹腔鏡下小切開手術で下腹部の6～7cm程度の小さい切開創から骨盤の奥深くに位置する前立腺にアプローチしていた頃と比較すると術者の負担も軽減され、隔世の感があります。RARPは患者さんにとっても術者にとっても優しい低侵襲手術と言えると思います。

現在当科では前立腺癌の症例に絞ってロボット支援手術を開始しましたが、今後は腎癌にも適応を拡大していくことを考えております。低侵襲手術であるロボット支援手術を積極的に推し進めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ダビンチの手術の様子

わしたしの臨床メモ

内視鏡医と外科医のコラボレーション LECS (Laparoscopy and Endoscopy)[※] Cooperative Surgery について

※腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除術

消化器内科部長 宿輪 和孝



LECSとは、内視鏡医による内視鏡手術と、外科医による腹腔鏡下胃局所手術の合同手術として、内科と外科の協力で行う手術のことで、必要最小限の侵襲で腫瘍切除を可能とする新しい手術方法です。

胃にできる腫瘍は、粘膜から発生する胃癌がもっとも多いですが、粘膜下にできる粘膜下腫瘍もあります。粘膜下腫瘍の中でもっとも多いのが消化管間質腫瘍（Gastrointestinal stromal tumor : GIST）で、手術治療が勧められる病気です。

胃粘膜下腫瘍の手術は、腹腔鏡下胃局所切除が行われますが、腹腔鏡の手術では切除する範囲が広くなってしまうため、なるべく正常な胃粘膜を残し、手術後の胃の変形を最小限にできるよう、切除する範囲をなるべく小さくする目的で開発された手術がLECSです。

実際の手技としては、全身麻酔下に腹腔鏡を挿入し、通常の胃カメラの要領で胃の中に内視鏡を挿入し、胃の中の様子と胃の外側(腹腔内)の様子を同時に観察しながら、早期胃癌に対して行われている内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic Submucosal dissection ; ESD）の手技を利用し、内視鏡医が胃の内腔から腫瘍を切除し、その後、外科医が腹腔鏡下に胃の外側から切除し、腫瘍を摘出していきます。

LECSは、開腹手術や通常の腹腔鏡下手術より体への負担が少なく、根治性と機能温存を兼ねた術式です。当院ではLECSを行うことができる内視鏡治療の経験を積んだ内科医と、腹腔鏡手術の経験を積んだ外科医が揃っており、この手術を安全に施行できています。患者さんにとってより良い医療を提供できるよう、心がけておりますので、今後もよろしくお願いいたします。



図1 胃カメラで腫瘍の周囲を切開します



図2 腹腔鏡側と内視鏡側の両方から腫瘍のみを切除していきます

※図はがん研有明病院より

令和6年能登半島地震 中部ろうさい病院DMAT活動報告

令和6年能登半島地震により被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

令和6年1月1日（月）に発生した能登半島地震において、当院の災害派遣医療チーム（DMAT）が、石川県穴水町で、医療支援活動を行いました。

チームは、医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名構成で、1月8日（月・祝）から12日（金）まで5日間、穴水町の総合病院で医療支援活動を行いました。

被災地は、電気は通じているものの、上下水道の復旧は見通しが立たず、水道、風呂、水洗トイレが使えません。また、破断した道路状況の中、自衛隊から毎日20tの給水を受け、簡易トイレでの生活を余儀なくされていました。

避難している地域の方や現地の医療従事者も心身ともに疲弊しており、入院患者を受け入れられる状況ではありませんでした。

チームの主な活動は、地域における医療の最後の砦として救急車を全て受け入れている、救急外来の運営管理を行いました。

固定電話、携帯電話ともに電波状況が悪く、複数台の救急車が事前連絡なしに、救急外来に搬送されることから他県のDMATと連携して患者対応を行いました。多くは、避難所での体調不良や発熱、持病の悪化のみられる高齢者でした。救急外来で限られた検査を行い、入院が必要な患者さんは、これ以上現地では入院治療ができないことから、ドクターヘリや他県混成の救急隊、DMAT車両を最大限活用して、被災地隣接の基幹病院や大学病院へ医療搬送を行いました。

まだまだ、震度3から4の余震が頻発しており、さらには雨から雪へ変わるなど気象状況も厳しく、避難所でのインフルエンザやCovid-19、ノロウイルスなどの感染症の蔓延もあり、こちらも厳しい状況が続いています。



医療機関のみならず、自衛隊、警察、消防、保健所、行政職員、そして電気やガス、水道のライフライン関係の復旧に携わる人達が、支援のため全国から参集しており、一日も早い「日常の回復」に向けて取り組んでいます。

地域の皆さまとお会いする度に「愛知県からわざわざ来て下さったんだね。ありがとうございます。」と口々にお声かけいただいたお言葉が忘れられません。

私たち中部ろうさい病院は、被災地に寄り添い、引き続き出来る事を全力で取り組み、地域の皆さまのお役にも立てるよう、最善を尽くしてまいります。



病院からのお知らせ

少子高齢化が進行する中で、名古屋市南部地区における当院の果たすべき役割について、経営判断を含め、当院で検討を重ねてまいりました。その結果、下記のとおり当院における小児科診療および分娩を停止させていただくこととしました。

当院の小児科に定期受診されている患者さま、停止日以降の分娩を予定されている患者さまにつきましては、状況を踏まえ、皆様方へ紹介させていただきたいと思っております。

医療機関の先生方には大変なご迷惑とご負担をおかけすることとなりますが、よろしくお願い申し上げます。

小児科診療の停止

●停止概要

小児科の外来診療、入院診療及び救急患者の受入れの停止

●停止日

令和6年4月1日（月）より停止
※令和6年3月31日（日）が最終日

●医療連携に関する問い合わせ先

地域医療連携室 電話 052-652-5950
メールアドレス
syouni_sodan.ad1@chubuh.johas.go.jp

分娩取り扱いの停止

●停止概要

分娩に係る外来診療及び当院での分娩患者の受け入れの停止

●停止日

令和6年4月1日（月）より停止
※令和6年3月31日（日）が最終日

●医療連携に関する問い合わせ先

地域医療連携室 電話 052-652-5950
メールアドレス
osan_sodan.ad1@chubuh.johas.go.jp

診療体制に新たな変更が生じた際には、改めてお知らせいたします。

その他、ご不明な点がございましたら、

医事課（052-652-5511 内線3003 平日14:00～17:00）までお問い合わせ願います。

栄養管理室長が 「知事表彰」を受賞しました

栄養関係功労賞を頂いて

栄養管理室長 関口 まゆみ

この度、愛知県知事から令和5年12月22日に県知事表彰を頂きました。

知事からは、「愛知県民の健康寿命は男性73歳（全国3位）女性76歳（全国1位）ですが、平均寿命からは、男性9年、女性12年の乖離がある。ここを縮めてもらうよう、引き続き寄与して欲しい」と言われて参りました。

近未来、管理栄養士の病棟配置も見えてきております。薬剤師と同じように、管理栄養士も病棟に常駐して栄養管理を行う。そんな日が来る事を願いながら、「この患者さんの栄養状態をもっとよくしたら、もっと元気になるんじゃないかな」という思いで、「食」と「臨床栄養管理」の質の向上に、引き続き尽力して参りたいと思います。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



関口監修

『いつまでもおいしく食べたい健康レシピ』

中部ろうさい病院で実際に提供したメニューのみで構成し、栄養バランスのよい献立の組み合わせ方法や健康の秘訣を掲載。

次ページに内容を
紹介しています⇒



病院売店・Amazonにて好評発売中

鮭と小松菜の混ぜごはん



主食

1人分(180g)

たくぱく質 11.6g

糖質 58.4g

塩分 0.6g

320kcal

材料〈4人分〉

米 ……………2号
塩 ……………少々
鮭の切り身
……………80g×1切れ
醤油 ……………大さじ1/2
酒 ……………大さじ1/2
小松菜 ……………1束
ごま油 ……………小さじ1

- 1 米と塩を一緒に炊いておく。
- 2 醤油・酒で鮭の切り身に下味をつけておき、魚焼きグリルで焼く。
- 3 小松菜を細かく刻んでごま油で炒める。
- 4 ごはんが炊けたら1と3を加え、混ぜる。

あじの梅ピカタ



主菜

1人分(1切れ)

たくぱく質 9.5g

糖質 4.3g

塩分 0.9g

106kcal

材料〈4人分〉

あじ(3枚おろし)
……………80g×2切れ
塩 ……………少々
コショウ ……………少々
梅干し ……………3個(小梅)
小麦粉 ……………大さじ2
卵 ……………2個
油 ……………大さじ1

- 1 あじは半分に切って、塩、コショウをする。梅干しは実を細かく刻む。
- 2 あじに薄く小麦粉をまぶす。
- 3 卵を割りほぐし、梅干しを混ぜあわせ、あじを入れて、からませる。
- 4 フライパンに油を熱し、3を皮目から入れ、両面を色よく焼く。卵液が余っていたら途中でからませながら焼く。



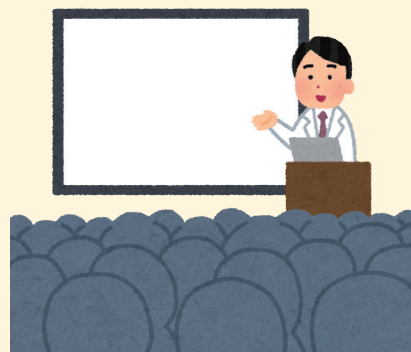
地域医療連携室からのお知らせ

冬季病診連携セミナーの開催について

時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、当院の地域連携について、ご理解をいただき、誠にありがとうございます。

さて、下記日程で冬季病診連携セミナー及び意見交換会を開催させていただきます。

なお、意見交換会はコロナ禍で長らく自粛しておりましたが、約4年ぶりの開催となります。地域の先生方との懇親の場になればと存じますので、ぜひご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



記

- 日 時：令和6年3月6日（水）17時～18時
- 場 所：名古屋マリオットアソシアホテル 16階「アイリスⅡ」（名古屋市中村区名駅1-1-4）
- 演 題：①『呼吸器外科専門医が行う肺がんのロボット支援下手術
～名古屋南部地域では当院のみです～』 中川 誠 院長補佐
②『当院の救急外来診療の充実に向けた取り組みについて』 渡邊 剛史 院長補佐

※セミナー終了後に意見交換会を準備させていただいております。

メディカルサポートセンター

（平日 8：15～19：30）

（TEL）052-652-5950

（FAX）052-652-5716

センター長：篠田 典宏（院長補佐）
副センター長：鈴木 陽子（看護副部長）
副センター長：庄山 武（医事（連携）課長）
連携係長：酒井 伸郎（入院係長）
事務担当：今枝 智子

医師交代

☆退職（令和6年1月31日付け）

小林 智輝 外科副部長 長坂 暢 病理診断科部長



広報委員長：循環器内科 篠田 典宏

編集担当：脳神経内科 上條 美樹子 皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻井 由紀子

医事課員 今枝 智子